



▲京阪電車が開通する前、明治30年代末～40年代初頭の御殿山から見た風景。中央に見えるのは現在も残る廃観音寺の鐘楼です。



▲田園地帯は住宅地に。春には御殿山神社の桜が咲き誇ります。



▲牧野村役場。昭和10年に招提村と合併して殿山町となった後も、しばらく役場として使用されました。

鐘のある村役場を見下ろした

御殿山

田畑と集落が広がるのどかな風景。御殿山神社から北方向を撮影した絵はがきです（中央上の写真）。手前の集落は現在の渚元町で、奥に三栗の町並みと淀川、天王山が見えます。明治時代、日露戦争を機に、戦地との間で手紙のやり取りが盛んになったことから絵はがきブームが起り、枚方の写真を印刷した絵はがきも多く製造されました。

この辺りは、平安貴族が鷹狩りなどを楽しむ行楽地で、惟喬親王の別荘・渚院（なづのいん）もこの地にありました。明治22年に渚・禁野・磯島など9つの村が合併して牧野村となり、渚院が建っていたと伝わる廃観音寺の鐘楼の隣に役場が置かれました。「敷地内には駐在所もあって、村の中心でしたね」と話すのは、牧野村の農家に生まれた90代の男性。「役場近くの駄菓子屋によくアメを買いに行きました。仕出し屋もあって、特別な日には父親が寿司を取っていましたよ」と、子どもの頃を懐かしそうに振り返ります。「御殿山神社の秋祭りにはプロの漫才師が来ることもあってね。祭りの日が楽しみで、友達と一緒に見に行っていました」。

現在、役場があった場所（渚元町）には渚保育所が建ち、園庭を駆け回る子どもたちの元気な声が響きます。田園風景は住宅地へと変わりましたが、今も残る廃観音寺の鐘楼が時代の流れを静かに見守っています。

（平成24年2月号）